

検査実施料の新規収載のお知らせ

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。
このたび、「保医発0831第5号」により、下記の検査項目において検査実施料の適用が行われましたので、ご案内いたします。
よろしくお取り計らいの程、お願い申し上げます。

敬具

記

適用日

平成24年9月1日から適用

新規収載項目

- 血小板第4因子-ヘパリン複合体抗体(IgG、IgM 及び IgA 抗体)
- 血小板第4因子-ヘパリン複合体抗体(IgG 抗体)

測定方法が追加された項目

- EGFR遺伝子検査〔Scorpion-ARMS 法を応用したリアルタイム PCR 法〕・・・受託検討中
- 淋菌核酸検出〔TMA 法による同時増幅法並びに HPA 法及び DKA 法による同時検出法〕
.....受託予定なし
- クラミジア・トラコマチス核酸検出〔TMA 法による同時増幅法並びに HPA 法及び DKA 法による同時検出法〕.....受託予定なし

※ 詳細につきましては、裏面をご参照下さい。

保健科学グループ



株式会社 保健科学研究所

本社／ 横浜市保土ヶ谷区神戸町 106
仙台支社／ 仙台市宮城野区扇町 1-3-5
中部支社／ 名古屋市西区則武新町 2-20-17
大阪支社／ 豊中市原田中 1-2-3
福岡支社／ 福岡市博多区山王 2-14-34

TEL 045-333-1661
TEL 022-236-9345
TEL 052-582-3201
TEL 06-6843-5622
TEL 092-452-0851

い か が く 組 織 科 学 研 究 所
遠 州 予 防 医 学 研 究 所 新 潟 臨 床 検 査 セ ン タ ー
小 田 原 衛 検 日 本 厚 生 団 衛 生 科 学 研 究 所
カ ス タ ム メ デ ィ カ ル 研 究 所 日 本 ノ ー バ メ デ ィ カ ル 研 究 所
相 模 医 研 保 健 科 学 東 日 本
湘 南 医 化 学 検 査 セ ン タ ー

● 検査実施料の新規収載項目

適用日：平成24年9月1日

検査項目	実施料	判断区分	診療報酬 点数区分	備考
血小板第4因子-ヘパリン複合体抗体(IgG、IgM及びIgA抗体)	180点 + 210点	免疫学的検査 (判断料：144点)	「D006」 出血・凝固検査 の20 + 「D011」 免疫血液学的検査 の6	ア 血小板第4因子-ヘパリン複合体抗体(IgG、IgM及びIgA抗体)又は血小板第4因子-ヘパリン複合体抗体(IgG抗体)はヘパリン起因性血小板減少症の診断を目的として行った場合に算定する。 イ 血小板第4因子-ヘパリン複合体抗体(IgG、IgM及びIgA抗体)又は血小板第4因子-ヘパリン複合体抗体(IgG抗体)を行った場合には、区分番号「D006」出血・凝固検査の「20」血小板第4因子(PF4)及び「D011」免疫血液学的検査の「6」血小板関連IgG(PA-IgG)の所定点数を併せて算定する。なお、判断料については、区分番号「D011」免疫血液学的検査に係る判断料のみを算定する。
血小板第4因子-ヘパリン複合体抗体(IgG抗体)	180点 + 210点	免疫学的検査 (判断料：144点)	「D006」 出血・凝固検査 の20 + 「D011」 免疫血液学的検査 の6	ウ 一連の検査で、血小板第4因子-ヘパリン複合体抗体(IgG、IgM及びIgA抗体)及び血小板第4因子-ヘパリン複合体抗体(IgG抗体)を測定した場合は、一方の点数のみを算定する。

● 「測定方法」の追加収載項目

適用日：平成24年9月1日

検査項目	実施料	判断区分	診療報酬 点数区分	備考
EGFR遺伝子検査 ◆Scorpion-ARMS法を応用したリアルタイムPCR法	2,500点	尿・糞便等検査 (判断料：34点)	「D004-2」 悪性腫瘍組織検査の1	「1」の悪性腫瘍遺伝子検査は、固形腫瘍の腫瘍細胞を検体とし、PCR法、SSCP法、RFLP法等を用いて、悪性腫瘍の詳細な診断及び治療法の選択を目的として悪性腫瘍患者本人に対して行った、肺癌及び大腸癌におけるEGFR遺伝子検査又はK-ras遺伝子検査、膵癌におけるK-ras遺伝子検査、悪性骨軟部組織腫瘍におけるEWS-Fli1遺伝子検査、TLS-CHOP遺伝子検査又はSYT-SSX遺伝子検査、消化管間葉系腫瘍におけるc-kit遺伝子検査、家族性非ポリポーシス大腸癌におけるマイクロサテライト不安定性検査又は悪性黒色腫センチネルリンパ節生検に係る遺伝子検査について、患者1人につき1回に限り算定する。 ただし、肺癌におけるEGFR遺伝子検査については、再発や増悪により、2次的遺伝子変異等が疑われ、再度治療法を選択する必要がある場合にも算定できる。 また、Scorpion-ARMS法を応用したリアルタイムPCR法を用いてEGFR遺伝子検査を実施した場合は、「2」の抗悪性腫瘍剤感受性検査の所定点数を算定する。
淋菌核酸検出 ◆TMA法による同時増幅法並びにHPA法及びDKA法による同時検出法	210点	微生物学的検査 (判断料：150点)	「D023」 微生物核酸同定・定量検査の2	ア 略 イ クラミジア・トラコマチス核酸検出は、PCR法、LCR法、核酸ハイブリダイゼーション法、ハイブリッドキャプチャー法、SDA法又はTMA法による同時増幅法並びにHPA法及びDKA法による同時検出法により、泌尿器、生殖器又は咽頭からの検体によるものである。
クラミジア・トラコマチス核酸検出 ◆TMA法による同時増幅法並びにHPA法及びDKA法による同時検出法	210点	微生物学的検査 (判断料：150点)	「D023」 微生物核酸同定・定量検査の2	ア 略 イ 淋菌核酸検出は、DNAプローブ法、LCR法による増幅とEIA法による検出を組み合わせた方法、PCR法による増幅と核酸ハイブリダイゼーション法による検出を組み合わせた方法、SDA法又はTMA法による同時増幅法並びにHPA法及びDKA法による同時検出法による。淋菌核酸検出は、泌尿器、生殖器又は咽頭からの検体によるものである。ただし、男子尿を含み、女子尿を含まない。なお、SDA法、PCR法による増幅と核酸ハイブリダイゼーション法による検出を組み合わせた方法又はTMA法による同時増幅法並びにHPA法及びDKA法による同時検出法においては咽頭からの検体も算定できる。

※ 下線部が改正により変更された部分になります。